

# 小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。  
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	整数（算数科）
学年	小学校第5学年
目標	・長方形のカードを同じ方向に敷き詰めて正方形を作る活動を通して、公倍数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	スクラッチ
環境	児童1人で1台のタブレット端末を使用
都道府県	香川県
実施校	観音寺市立一ノ谷小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p><b>単元について</b></p> <p>倍数や約数、公倍数や公約数を形式的に求めることに偏らず、具体的な場面や半具体物・数直線等を手がかりに話し合わせることで意味理解を深める。倍数・公倍数を弁別する際には、タブレットで倍数や公倍数を見つけるプログラムを利用して効率よく求め、プログラムの利便性に気づかせる。</p> <p><b>本時の学習指導の実際（全10時間 本時：5／10）</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>前時を振り返り、本時の課題をつかむ。</li><li>どんな数にすればよいか考える。<ol style="list-style-type: none"><li>自力で考える。</li><li>プログラムを使って確かめる。</li></ol>既存の公倍数を見つけるプログラムを示し、プログラミングを問題解決に活用しようとする意欲を高めた。</li><li>公倍数になる理由を話し合う。</li><li>練習問題を解き、考えをまとめる。<p>公倍数を見つければよさそうだという答えの見通しをもたせてから、自作のプログラミングソフトを活用させた。</p></li></ol> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>
成果と課題	<p>○ 前時までに、1～100までの数の表に表示されるプログラムを使って楽しく倍数・公倍数見つけに取り組んだり、倍数や公倍数の規則性に気付いたりすることができた。また、簡単に見つけられることで、コンピューターの利便性にも気付くことができた。</p> <p>○ 問題の場面をアニメーションで見せることで、公倍数の意味理解が深まった。また、プログラムの命令のブロックに「○で割った余り=0」という倍数のきまりが使われていることを確認することで、学びの価値を感じさせることができた。</p> <p>△ 本来、学習を進めながら繰り返し倍数や公倍数を見つけることで習熟していくが、プログラムを使うことで、自分で計算して見つける機会が減ってしまった。</p>

